

# 見えないモノを見る

## — 民俗学周遊

話題提供 **福澤 昭司**さん (日本民俗学会会員)

日 時 **4月13日(土)** 午後1時30分～3時30分(予定)

会 場 **あがたの森文化会館 講堂・第一会議室** 参加費 200円

※ 電話での事前申し込みが必要です

民俗学は70～80年代のブームとでもいえる時期が過ぎ去ると、世の中の話題となる機会も年々少なくなりました。それどころか、いったい何を研究対象とする学問なのかすら今ではよく説明しないとわからなくなっています。習俗といえるものが今はどんどんなくなっているとすれば、学問自体の存在意義が危ぶまれます。しかし、「民俗」を身近にあって論理的には説明しきれないモノ・コトだと定義したら、どうでしょうか。肌感覚でゾワッとした思いは、誰でも一生に一度くらいはあるのではないのでしょうか。また、理由は判然としないまでも、なぜかそうしてしまうことなどありませんか。

昔も今も、人びとは病気や霊的なモノ(感覚)あるいは神など目に見えないモノには形を与えて、見える化することで対応してきました。見える化する行為を文化と呼んでもよいと思います。今回はそうした行為や観念の中から、疫病神を追い払うための儀礼や狐に化かされた話、そして私がこれまでの調査でお聞きすることができた不思議な話などを取り上げて、お互いの心の底をのぞいてみたいと思います。

福澤昭司さんは1952年生まれ。義務教育教員の傍ら民俗学の調査研究に携わる。長野県史民俗編常任編集委員を務め県内の民俗調査と執筆を行う。著書に『民俗と地域社会』(岩田書院)『民俗の変化と視点』(信毎書籍)。その他民俗関係論文多数。松本市在住。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎35-6226 FAX 33-9986